

全国社会的課題委員会



全国大学生協連
学生委員会
編集者 浦田行紘

25/6/7(土) 第2回全国社会的課題委員会

次回は…
9/15 (月・祝)

概要

名称：2025年度 第2回 全国社会的課題委員会
日程：2025年6月7日(土) 13:00～18:00
場所：オンライン開催(Zoom)

参加者(敬称略)

- 委員長：木下高志(大阪大学生協 専務理事)
- 副委員長：田島伸(信州大学生協 専務理事)
- 生協職員：田中(宮城教育大生協)、奥(東海)、吉山(中四事業連合)
- ブロック学生事務局：平井(北海道)、大潤(東北BK)、鳥居、浦瀬、白石、中津(東京)、池田、藤井(関西北陸)、加藤、北川(中四)、水野(東海)、井上、平野(九州)
- 階層別組織委員会：朴(全国教職員委員会)、伊藤(全国院生委員会)、高須、瀬川、浦田、佐藤、志村、仲間、小谷、藤島、漆崎(25年度全国学生委員会)
- 全国大学生協連：中森、藤江、田足井
- JUON：鹿住
- オブザーバー：石渡 (全国院生委員会)



00 分野にわかれて具体的に協議！

全国社会的課題委員会(以下、全社委)は「環境」「平和・国際貢献」「激甚災害支援・防災」「消費者」の4つの分野を軸にしたチームに分かれ、具体的に協議をしています。それぞれのチームでの協議の様子は以下の通りです。

a.環境チーム



環境

全社委の時間の中では、JUON NETWORK総会に向けて、大学生協の関わりや呼びかけについて共有・協議しました🌱。

樹恩割り箸の認知・利用の拡大のために日頃から何ができるのか考えました。

ブロックの連帯の場で紹介や利用を行うなど、全社委メンバーを中心に場や機会を設けることも重要であること、利用をしている大学生協の役職員がまずは利用状況と認知を行うことが大事だと共通認識を持ちました👍。

b.平和・国際貢献チーム



平和・国際貢献

Peace Now!2025のテーマにもなっている「終戦・被爆80年」について何ができるのかを考え、それぞれのブロックの推進や考えていることを共有し、議論をしました。

私たちにできることは、遠からず身近にあることに気づき、今後行動に移していくうえでのヒントを得ることができました。

平和・国際貢献チームのTeamsのチャットも積極的に活用していき、各地域で推進に活かせるようにしていきましょう！

c.激甚災害支援・防災チーム



激甚災害
支援防災

現在企画作成が進んでいる「ふくしま」スタディツアーについて、この間の大船渡山林火災やミャンマー地震などの募金について、自然の災害から守るには？の3点から主に共有・協議しました。

特に募金のところではこの間の発信の中で大学生協として災害をジブンゴトとして捉えてもらうためにはどうするべきなのか、大学生協があまたある災害に対して募金などの支援を行うのはなぜか等改めて災害・防災をジブンゴトとして考えるために必要なこととの交流を行いました。

d.消費者チーム



消費者

来年度刷新される、「50の危険」の内容について、現在の大学生が実際に直面するリスクを協議しました。

普段の生活の中でどのようなリスクがあって、どんなトラブルに巻き込まれやすいのかを考えることができました。大学内の生活や大学外の生活を送るうえで、必要な知識や心構えなどのヒントを得ることができました。

新入生に向けて、どのような情報があれば安心して大学生活を送ることができるのかを皆さんと一緒に考えていきましょう！

01 ユニセフハウス訪問報告

ユニセフハウスへの訪問報告！

4/15(火)に学生常勤、東京ブロック学生事務局数名で東京都品川区にあるユニセフハウスを訪問しました。こちらは、ユニセフや世界のこどもたちの実情、こどもの権利条約について知ってもらうための体験型施設です。子どもが学校に行けず家の仕事に従事している様子を知ったり、実際に重たい水瓶を持ってみたりしました。全国社会的課題委員会では施設の様子と訪問者の感想を添えて報告しました。大学生協の国際貢献活動やユニセフ活動が活発になるきっかけになれば良いと思います。



02 そなエリア訪問報告

防災施設への訪問報告！

4/15(火)に学生常勤、東京ブロック学生事務局数名で東京都江東区にある防災体験学習施設そなエリア東京に訪問に行ってきました。全国社会的課題委員会の中ではその訪問報告のみでしたが、実際に各地域でも防災施設について探してみたり、防災というボリュームミナコンテンツに対して自分が何をすべきか考えるきっかけになればいいなと思っています。



03 募金について

災害をジブンゴトとして捉えてもらうために大学生協として何が出来る??

この間様々な募金を大学生協連としても推進していますがそもそもなぜ私たちは募金を推進しているのでしょうか？近年では「自分が募金したって…」という考え方や「他の知らない地域だし…」と考えてしまう節があるのではないのでしょうか？

まずはそこから私たちは考えていく必要があると思います。私たちは”生活協同”組合です。自分は大丈夫でも協同する仲間の誰かがどこかで災害によって生活が脅かされている現状があるのではないのでしょうか？という問題提起からまずは災害をジブンゴトとして捉えられているか、ジブンゴトとして捉えるために意識していることがあるかの意見交流やそれを踏まえて大学生協として募金をどのように推進していく必要があるかについて協議を行いました。

今回の協議の前提として募金を強要するわけではなく、1つの手段として大学生協として募金を広げていくのはどうでしょうか？という議題提起でした。災害をジブンゴトとして意識してもらうきっかけづくりができたのではないかと思います。

04 大学生協の選挙促進

政治的有効性感覚・学習性無力感を大学生活を通してよりよくできないだろうか

参考:第48回「学生の意識と行動に関する研究会」ネット選挙と若者世代の政治参加意識

声をあげても校則や学校のルールが変わらないのだから声をあげるのは無駄なのでやめよう。と思ったことはないだろうか。若者世代は、政治参加に興味関心がないわけではなく、実は自分たちで自分たちの暮らす学校や社会を作っていくことができるという感覚を持っていないことが政治参加ないしは選挙率が低い要因なのではないだろうか。

そんな話題提起を基に、組合員の現状を絶えずウォッチし都度寄せられる組合員の声をもとに事業づくりを行っている大学生協は、特に学生の組合員の政治的有効性感覚や学習性無力感をよりよくすることができ、若者の政治参加・投票率の向上に寄与することができるのではないかと協議しました。

選挙・投票へ行こう！という存在や意義の周知は勿論のこと、声をあげることの可能性を大学生協が組織活動・事業活動で示すことも大切です。

05 今年度の平和推進について

「終戦・被爆80年」経った意味を考え、行動への一步を踏み出す

「1945年の終戦・被爆から80年経った2025年、みなさんはこの事実をどう受け止めますか？」

この問いかけをもとに、一組合員として・社会的課題を推進する者として何が出来るかを考えました。

私たちが出来ることは大小関係なく、身近な所からできるのではないのでしょうか？

周りで起きていることに目を向けて「より良い生活と平和」について、引き続き考えていきましょう！

つながる元気、ときめきキャンパス。



ジブン・ジブンタチができることはなんだろう

5月17日(土) 12:00~13:00 東京大学本郷キャンパス 田中熙巳氏講演会「核兵器のない平和な未来へ〜次世代へのメッセージ〜」



若い人、ともに頑張りましょう

対話をしてほしい

【ニュース】日本原水爆被害者団体協議会・代表委員・田中熙巳氏 | 全国大学生生活協同組合連合会(全国大学生協連) univ

06 大学生協が取り組む「もったいない」 フードロス&フードウェイスト

事業者と消費者をつなぐ

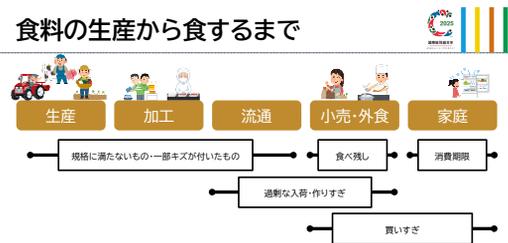
小売に至るまでのサプライチェーンで生まれる『フードロス』と、小売・飲食サービス・消費者の手元で生まれる『フードウェイスト』は深刻な課題です。

我が国には「もったいない」という意識を始めとし「いただきます」「ごちそうさま」といった食べ物や自然の恵み・作ってくれた方々への感謝が込められた言葉や、食材を余すことなく使ったり、残り物を持ち帰ったりといった食文化があります。フードロス・フードウェイストを減らそうとすることは私たちの食文化を再確認する機会であり、組合員の食卓である私たち大学生協は食事業・組織活動を通じて、事業者である大学生協と消費者である組合員の関係をフードロス・フードウェイストの両面から考え直すことが必要なのではないでしょうか。

北海道・東北・東京・東海地区の一部の食堂では、2025年1月に、Dole社の『もったいないフルーツプロジェクト』として「もったいないバナナカレー」「もったいないバナナパウンドケーキ」を出しました。

寄せられた組合員の声や販売実績から大学生協がフードロス削減に取り組む意義を協議しました。併せて、家庭や外食でフードウェイストを減らすために組合員とともに意識したいことも協議しました。

食料の生産から食するまで



組合員と共に取り組む



+α 地域報告で報告された、 注目する取り組みとポイント



環境

宮崎大学生協「おさがり市」

<概要>
主に卒業生から処分する予定の電子レンジ・本棚といった大きな家具家電や、コップやタッパーといった小物などを生協を仲介して新入生へお渡しする。

<ポイント>
譲渡する上級生は新入生へのメッセージもカードに記載しており、想いも受け継がれる3Rを考えることもできる。続けて開催していることで貰った側が数年度渡す側になることまで見越しており、保護者にも人気である。

平和・国際貢献

東北ブロック「選挙推進」

<概要>
・ブロック学生委員会や社会的課題分野推進委員会内で、「選挙」があることを周知。
・なぜ選挙に行くことが重要なのかについても共有し、まずは大学生協側から知り・行動をしていこうと提起した。

<ポイント>
・「選挙に行く」ことを目的として周知するのではなく、「なぜ選挙に行くのか」を考えるきっかけを作った。
・【選挙・投票促進】学生事務局情報交換チャットで、東北ブロックの動きを報告した。

激甚災害支援・防災

近畿大学生協「能登ボランティア活動」

<概要>
・近畿大学生が継続的なボランティア活動に参加できるように、学生が現地に赴き被災地と向き合う機会を作るためにボランティア活動を行った。
・学生ならではの力を被災地に届けるために実施。石川県輪島市門前町黒島町・深見で活動した。

<ポイント>
・ボランティア活動をしているだけでも素晴らしいのだが、さらに近大生が継続的なボランティア活動に参加できるようにすることも目的としている点。

消費者

東海ブロック「愛知県消費者大会講座」

<概要>
・ブロック学生委員会にて「ブラックバイト」と「契約のトラブル」について講演があった。
・身近な例から実際にどのようなトラブルになるのかという話ができていた。

<ポイント>
・学生生活に身近なテーマ設定にしたことで、普段の生活を想像しながら関心を持って講演を聞くことができた。
・消費者月間の説明も行ったことで、消費者課題についての意識を会員生協が持てるように促した。

つながる元気、ときめきキャンパス。



次回は…
9/15 (月・祝)



政策討議を政策執行に
に繋げます